



# 日本児童文学大系

児童文学の源流

責任編集

猪野省三・菅 忠道  
熊谷 孝・関 英雄  
巖谷 栄二

三一書房

# 第一卷

児童文学の源流



## 刊行のことば

日本に近代的な児童文学が芽ばえた巖谷小波の時代からは半世紀をはるかに越えています。それは世界名作の再話や翻訳など移植文学を主流とする歴史であったと、よくいわれています。でも日本の土壌に創造的な成果がみられなかったわけではありません。人生の深い象徴をこめた小川未明の童話や、子供の感覚をいきいきとたいあげた北原白秋の童謡をはじめ、世界の水準に照しても珠玉の輝きを放つ数多くの作品をあげることができます。ところが今日までこうした成果を集大成し、埋もれたものを掘りおこして、歴史の流れに位置づけてみるという仕事は、ほとんど放置されたままでした。

児童文学の意義や役割には重い責任がかかけられながら、社会的にはむくいられることのうすかったのが、日本児童文学と児童文学者の立場でした。この根底には、子供の人權を正當に認めなかった児童観が横たわっています。児童文学者は同時に子供の社会的な代弁者として、苦難のたたかひをつづけてきたのです。それなのに、いま、日本の児童文学は、子供たちから背をむけられるという深刻な矛盾に直面しています。こどもの心をとらえているのは、漫画・絵物語に代表される通俗的な娯楽読物でありくちびるにうたわれるのは卑俗な流行歌です。むしばまれていく子どもの魂を心配して、両親や教師たちのあいだには、児童文学への高い関心がわき起っています。日本の児童文学が今日のように、国民の

きびしい批判と高い期待のまえに立たされたことは、かつてなかったことです。これまで民主的芸術的な児童文学としてたどってきた道を、子供のための国民文学の創造というひろい展望のなかで、見なおさぬわけにはいかなくなっているのです。そのためにも、民謡の再評価をはじめ児童文学の源流にさかのぼっての再検討や近代以降の児童文学について達成と欠陥を根本的に考えなおす必要に迫られています。また、一方、子供たちの人間形成における文学の働きをめぐって、文学教育の課題と方法とを理論的にも実践的にも明らかにしなければならないわけです。

こうした要請にこたえて、ここに「日本児童文学大系」全六巻を刊行することになりました。日本の児童文学のエッセンスを集めたこの大系には、日本の子どもたちの生活、よろこび、かなしみ、いかり、夢が、それぞれの時代の特色にいろどられながらいきいきと描きだされています。それは子ども自身のものであるとともに、子どもの心の真実にふれたいと思うすべての親、すべての教師のためのものでもあります。

一九五五年五月一日

|      |      |     |     |     |
|------|------|-----|-----|-----|
| 猪野省三 | 巖谷栄二 | 菅忠道 | 熊谷孝 | 関英雄 |
|------|------|-----|-----|-----|

## 凡 例

- 一、収載作品は、できるだけ初出の原典（新聞・雑誌など）によることにした。
- 二、収載に当って、かなづかいは現代かなづかいに、用字は教育漢字を主にした当用漢字まじりに書き改めた。ただし、作品の題名は、原則として初出の表記に従った。
- 三、収載作品の配列は、（一）童話・小説・児童劇・学校劇、（二）童謡・詩、（三）評論・声明書（運動方針書・アピールを含む）の各ジャンル別にまとめた。
- 四、各ジャンル内での作品の配列は、原則として発表年月順によったが、ときに執筆年月日順によった場合もある。



# 第一卷 目次

## I 童話・小説・劇

|   |   |   |   |          |
|---|---|---|---|----------|
| こ | が | ね | 丸 | 巖谷小波……七  |
| 鬼 | 桃 | 太 | 郎 | 尾崎紅葉……六  |
| 猿 | 蟹 | 後 | 日 | 巖谷小波……四  |
| 糸 | 犬 | 一 | 郎 | 山田美妙……八  |
| 太 | 郎 | 冠 | 者 | 中川霞城……六  |
| 金 | 時 | 計 | 郎 | 泉鏡花……一〇三 |
| 桃 | 太 | 郎 | 郎 | 巖谷小波……二五 |
| 子 | 供 | ご | こ | 広津柳浪……一三 |
| 思 | い | 出 | 行 | 若松賤子……一五 |
| 附 | 木 | 舟 | 紀 | 巖谷小波……一六 |
| 雛 | つ | 児 | 行 | 田山花袋……一八 |
| 渡 | 舟 | 錢 | 行 | 巖谷小波……一八 |

|   |   |    |       |       |    |
|---|---|----|-------|-------|----|
| 五 | 光 | の  | 滝     | 巖谷小波  | 二五 |
| 山 | の | 力  | 国木田独歩 | 三三    |    |
| 月 | の | 宮  | 真下飛泉  | 四三    |    |
| 金 | 魚 | のお | 使     | 与謝野晶子 | 五四 |
| 羽 | 子 | 一代 | 記     | 黒田湖山  | 六〇 |
| 競 |   |    | 馬     | 武田仰天子 | 六七 |
| 小 | 移 | 住  | 者     | 島木赤彦  | 七三 |
| 赤 | い |    | 船     | 小川未明  | 七八 |

## II 童謡・詩

|   |   |          |    |
|---|---|----------|----|
| 蝶 | 々 | 文部省音楽取調掛 | 六九 |
| 螢 |   | 文部省音楽取調掛 | 六九 |
| あ | お | 文部省音楽取調掛 | 七〇 |
| 故 | 郷 | 大和田建樹    | 七〇 |
| の | あ | 佐々木信綱    | 七二 |
| 桜 | 井 | 落合直文     | 七二 |

|   |   |   |    |               |
|---|---|---|----|---------------|
| 花 | 城 | の | 月  | 武島羽衣……………二九三  |
| 荒 |   |   |    | 土井晚翠……………二九三  |
| 雀 |   |   |    | 佐々木信綱……………二九四 |
| 雁 |   |   |    | 滝 廉太郎……………二九四 |
| 花 | 咲 |   | 爺  | 石原和三郎……………二九五 |
| 桃 | 太 |   | 郎  | 田辺友三郎……………二九六 |
| 一 | 寸 | 法 | 師  | 巖谷小波……………二九六  |
| 夏 | は | 来 | ぬ  | 佐々木信綱……………二九七 |
| 川 | 中 |   | 島  | 旗野十一郎……………二九八 |
| 美 | し | き | 天  | 武島羽衣……………二九八  |
| 戦 |   |   | 友  | 真下飛泉……………三〇〇  |
| 真 | 似 | 師 | 吉  | 岩野泡鳴……………三〇一  |
| 森 | の | 姥 | さん | 巖谷小波……………三〇三  |
| 冬 | が | 来 | た  | 岩野泡鳴……………三〇五  |
| 雛 | ま | つ | り  | 田山花袋……………三〇六  |
| 旅 |   |   | 愁  | 犬童球溪……………三〇七  |
| 故 | 郷 | の | 家  | 犬童球溪……………三〇八  |

|          |      |     |
|----------|------|-----|
| 子守唄      | 竹久夢二 | 三〇八 |
| 悲しい郷里    | 星野水裏 | 三〇九 |
| 曼珠沙華     | 北原白秋 | 三四  |
| 南京さん     | 北原白秋 | 三五  |
| 屋根の風見    | 北原白秋 | 三五  |
| よっちゃんよい子 | 巖谷小波 | 三六  |
| かんな鴉     | 平井晩村 | 三八  |
| 鈴の音      | 西条八十 | 三九  |
| 林檎       | 葛原 幽 | 三〇  |
| お客様      | 葛原 幽 | 三〇  |

### III 評 論 ・ 声 明 書

|                         |       |    |
|-------------------------|-------|----|
| 「少年園」発刊の主旨を述べ先ず少年の師父に告ぐ | 山泉悌三郎 | 三五 |
| 「少年園」発刊に際しての祝辞          | 徳富猪一郎 | 三六 |
| 少年書類について                | 高橋太華  | 三八 |
| 「こがね丸」序                 | 森 鷗外  | 三〇 |

|                    |            |
|--------------------|------------|
| 「こがねまる」についての新聞雑誌評  | 三〇         |
| 「こがねまる」をめぐる文章論争    | 堀 紫 山 三三   |
| 小公子前篇自序            | 若松 賤 子 三七  |
| 日本昔噺「桃太郎」序         | 坪内 逍 遙 三八  |
| 明治廿八年の迎う「少年世界」発刊の辞 | 三九         |
| 「日本昔噺」序            | 巖 本 善 治 四〇 |
| 巖 谷 小 波 氏          | 四一         |
| 少 年 文 学            | 四三         |
| メルヘンに就いて（武島羽衣氏に与う） | 四四         |
| 漣 山 人 の お 伽 噺      | 猛 八 郎 四六   |
| 「世界お伽噺」発刊の辞        | 巖 谷 小 波 四八 |
| 家 庭 と 児 童          | 黒 田 湖 山 五〇 |
| 漣山人の「日本お伽噺」        | 高 山 樗 牛 五五 |
| 少年文学の教育的価値         | 三六         |
| 教育界と小説             | 芥 舟 漁 郎 五七 |
| 独逸のお伽芝居            | 巖 谷 小 波 六一 |
| お 伽 噺 作 法          | 巖 谷 小 波 六四 |

|                          |            |     |
|--------------------------|------------|-----|
| 子供に代って母に求む……………          | 巖谷小波……………  | 三六五 |
| 「お伽共進会」懸賞お伽噺の批評……………     | 上田万年……………  | 三七七 |
| お伽噺に関する意見……………           | ……………      | 三七〇 |
| お伽時間及び話材の選択……………         | 井上哲二郎…………… | 三七〇 |
| 明治的・国民的の肩書を要す……………       | 坪内逍遙……………  | 三七一 |
| 道徳以上・人情以上……………           | 内田魯庵……………  | 三七一 |
| 過度の刺戟を避くべし……………          | 幸田露伴……………  | 三七二 |
| 大人とお伽噺……………              | 長谷川天溪…………… | 三七三 |
| 教育家を気取と干物になる……………        | 戸川残花……………  | 三七三 |
| 進取的国民の養成……………            | 吉岡郷甫……………  | 三七三 |
| 学校教育の基礎を与うべきもの……………      | 中川霞城……………  | 三七四 |
| お伽噺応用の一法……………            | 窪田重式……………  | 三七四 |
| 明治教育史を飾るべき一大光彩……………      | 安田善三郎…………… | 三七五 |
| 桃太郎は無形の人にあらざる……………       | 姉崎正治……………  | 三七五 |
| 教育を主眼としたるお伽噺の採るべき方針…………… | 安田脩……………   | 三七六 |
| 健心強身の道……………              | 三島通良……………  | 三七七 |
| しんみりとありたし……………           | 島村瀧太郎…………… | 三七七 |

講堂教育に勝る……………下田歌子……………三七

万有を有生視し人格化するの妙……………下田二郎……………三八

お伽噺の利益及び其弊害……………森岡常藏……………三八

改訂 日本昔噺の巻頭に……………巖谷小波……………三九

楽 天 小 言……………巖谷小波……………三〇

少年文学研究会に就て……………芦谷重常……………三一

少年主人公の文学……………小川未明……………三三

解 題……………巖谷栄二……………三七

年 表 (一八六八年—一九一七年)……………菅谷忠道……………四二

菅谷忠道……………高志信隆……………四二



# I

## 童話、小說、劇